

愛の聖母園

事業報告NO.38

平成28年12月1日

社会福祉法人 善き牧者会
児童養護施設 愛の聖母園

〒891-0117 鹿児島市西谷山一丁目1番15号
TEL.099-268-2045 FAX.099-268-2809

E-mail:seiboen@peace.ocn.ne.jp
http://ainoseiboen.jp

じあいさつ

頭島 光

はじめに

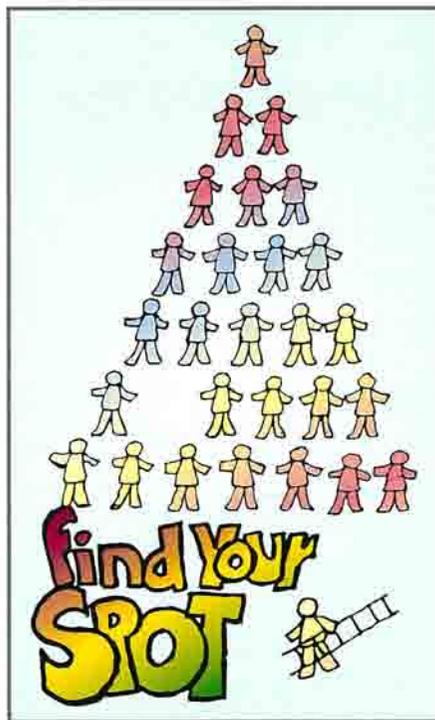
2016年、今年も終わろうとしています。多くの人々に神様の愛の手は差し伸べられたことでしょうか。

神様が差し伸べる愛の手は、私たち一人ひとりの手をおして、その温もりを通して伝えられたことでしょうか。何気なく差し伸べられた手が人の心を和ませ、ささやかな笑顔になったことでしょうか。それは、スッと通り過ぎるあたたかな風のようにした。何事もなかったかのように終わらせるにはもったいないくらいです。でも、弱った心の中に小さな光がともった瞬間でもあるのです。

心の声を聴く

最近、心の声に耳を傾けることが少なくなってきました。現代社会が余りにも急速度で

早過ぎるほどに走り回るからではないでしょうか。時間との戦いかのように毎日を忙しく駆け抜ける生活の私たち、今こそ、ハタとその早足を止めてはどうでしょうか。時間は止められなくとも、自分の歩く足の速さを弛めることくらいはできるはずです。確



かに空間のさわやかな流れの中に身を投じる時はないでしょうか。そうすれば、少しは気づけなかつた何かに心を留めあげることができたり、何かが開けて来るのを一緒に見てあげることもできるのではないで

子どもたち

子どもたちは、私たちよりも、もっと大きく強いエネルギーで未来に向かって前進し、成長してきます。その力は、私たちをときには圧倒しながら駆け抜けていきます。毎日、新しく変化する子どもたち、そのエネルギーとぶつ

かりあいながら、そこに自分がいることに私たちは喜びを感じます。そこには無限の可能性と新しく変化する子どもたちのエネルギーがあるからです。それは、ときには私たちに勇気と力を与えます。もし、きょう彼らと出会っていなかったら、私も笑顔にはなれなかつたでしょう。大きな声で返事をしてくれる彼らの触れる手は、いつも新しい感触です。彼らの見る目はいつも生き生きとして、その言葉には、もう昨日のことが残っていません。このエネルギーは、いったい何だろう。私たち大人は、何もかも分かつた風に生きていますが、実はよく分かつていなかたりします。もう一度、彼らと同じ目線に立ち、見守ってみてあげましょう。そこには純粋無垢な彼らだつたり、天真爛漫な姿であつたり、それらを見ることができれば、こんな幸せはない、とさえ思えるでしょう。

（社会福祉法人「善き牧者会」理事長）



1年

の

ハイ

ラ

イト



2016

2015



2015年

- 12月24日 各ホーム・クリスマス パーティー
12月25日 クリスマス会

2016年

- 1月 1日 元旦の集い
1月 7日 七草祝い
1月16日 小学生錬成会(低学年A.G)
1月21日 新年会
2月20日 高校生錬成会
3月12日 学習ボランティア(公文)感謝の会
3月13日 卒業お祝会
3月15日 中学校卒業式
3月18日 幼稚園卒園式
3月24日 小学校卒業式
3月27日 イースター
4月 6日 小・中学校入学式
4月10日 入・進学お祝会
5月初旬 ゴールデンウィーク:各ホーム計画
6月25日 小学生錬成会(中・高学年)
7月22日~23日 小学生Aグループキャンプ
7月25日 幼児部会 プール遊び
7月28日~29日 小学生Bグループキャンプ
8月 3日~ 5日 高校生キャンプ
8月 9日~10日 中学生キャンプ
8月26日 ガーデンパーティー
9月16日 十五夜
9月17日 小学生錬成会(低学年B.G)
9月25日 中学校運動会
10月 2日 小学校運動会
10月10日 幼稚園運動会
10月16日 校区体育祭
11月 5日 中学生錬成会

その他 レクリエーション 多数



愛の聖母園理念

社会福祉法人「善き牧者会」及び児童養護施設「愛の聖母園」は、「わたしが来たのは羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。わたしはよい羊飼いである。よい羊飼いは羊のために命を捨てる。」(ヨハネ福音書10/10-11)と言われたイエス・キリストの思いを基本理念とする。

施設に入所する子どもたちは、様々な理由により、幼少期における成長に不可欠な家庭での健全な保護と養育・教育の場から一時的に、また長期にわたって疎外されている。職員一同はこうした子どもたちを神から委ねられたものとして、施設の保護者・聖マリアに倣い、やり直しのきかない子どもたちの人生のこの時期を能うがぎり共に歩もうとするものである。

愛の聖母園の職員は、すべての人間が神の似姿として、神によって創造され、かけがえのない者として愛されている存在であり、そこに人間の尊厳があり、その尊厳はいかなる権力によっても侵害されるものではない、というキリスト教の人間観に基づき、またイエス・キリストの小さく弱い人に対する熱い思いや情熱を見習いつつ、愛の奉仕の精神をもって子どもたちと関わるものである。

園の特色

- 神に愛されてることを知り、感謝の「心」を育む環境
- 5棟の戸建6～8名の小グループでは、温かい家庭的雰囲気の中で治療的・個別的な関わりを通して安心して伸び伸びと育つように支援
- 6名定員の地域小規模施設でよりよい家庭的な生活体験
- 一対一の関わりの中でプレイセラピー、カウンセリングや生活場面面接による心理療法
- 子どもの養育が一時的に困難な場合、鹿児島市と契約を結んでのショートステイやトワイライトステイ事業を通しての子育て短期支援サービス
- 町内会や校区の行事に参加したり、地域の子どもたちを園の行事に招待したりして、地域との交流。園の多目的ホールや運動場は地域のニーズのために開放
- 学習指導(個人)、レクリエーション、ハンドベル、ピアノ、三味線、一時里親、ホームの援助や子どもとの交流、裁縫や清掃作業奉仕、数多いボランティアの方々による協力

園の概要

児童定員 51人
 施設形態 小舎
 敷地面積 5,769m²
 建物面積 2,386m²

入所児童状況

平成27年12月1日現在 入所児童数 41名
 平成27年12月1日～平成28年10月31日 入所10名 退所5名
 平成28年11月1日現在 入所児童数 47名(11/1入所1名含)

児童・職員の人数編成

平成28年11月1日現在

| | 未 満 児 | 年 少 児 | 計 | 小 学 生 | | | | | | 計 | 中 学 生 | | | 計 | 高 校 生 | | | 計 | 合 計 | 定 員 | 暫 定 | | |
|---|-------------|-------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---|-------------|-------------|-------------|---|-------------|-------------|-------------|---|--------|--------|--------|-------------|--|
| | | | | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | 4 年 生 | 5 年 生 | 6 年 生 | | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | | 1 年 生 | 2 年 生 | 3 年 生 | | | | | そ の 他 | |
| 男 | 1 | 3 | 4 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 8 | 4 | 2 | 1 | 7 | 2 | 1 | 2 | 0 | 5 | 24 | 47 | 51 | |
| 女 | 2 | 3 | 5 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 1 | 2 | 4 | 5 | 2 | 2 | 0 | 9 | 23 | | | |

| 施設長 | 事務長 | 基幹的職員・職業指導員(主任兼任) FSW・児童指導員・保育士 | 事務員 | 栄養士・調理員等 | 心理担当 | 里親支援専門相談員 | 保育士補助 | 合計 |
|-----|-----|------------------------------------|-----|----------|------|-----------|-------|----|
| 1 | 1 | 22 | 1 | 5 | 1 | 1 | 2 | 34 |

聖劇



🎄🎁 サンタのハプニング 🎁🎄🎅👶



配っている場面がありました。子供達は自分の名前を呼ばれるとサンタさんのもとへ駆け寄っていくのですが、サンタさんが「マテオ」と呼んだ時、2人の男の子がサンタさんの所に走って行きました。2人とも同じマテオという名前だったことに困惑したサンタさんでしたが、耳元で名字を聞き、どちらのマテオのプレゼントが確認することが出来ました。その時、自分がまだ呼ばれていないと分かったマテオでしたが、後で呼ばれると分かっていたので喜んでまた引き返してきました。ハプニングなんて関係なくなる位にプレゼントはうれしいですね!! (園長談)

※サンタクロースの由来となった聖ニコラオの祝日は12月6日で、子供達はその日にサンタさんからプレゼントを頂いていたようです。



心理 のお仕事

私が愛の聖母園で、心理担当職員として子ども達と一緒に生活するようになってから10年が経とうとしている。どんな10年だっただろうかと振り返ってみると、愛の聖母園で出会うことのできた、たくさんの子ども達の顔、また励まし合い、助け合ってきた職員の顔が浮かんできた。私は、新任の頃からずっと愛の聖母園で“架け橋のような存在になりたい”と思いながら過ごしている。「子どもと子どもを繋ぐ架け橋」「子どもと大人を繋ぐ架け橋」「大人と大人を繋ぐ架け橋」「架け橋」といってもたくさんの“架け橋”がある。なかでも、心理担当として最も重要なことは「子どもと大人を繋ぐ架け橋」だと思っている。子どものキラキラ光るところ、また陰になるところ等、日常生活にはない視点での発見を職員に伝えていく。小さなことだが、私たち心理担当職員のさじ加減ひとつで、子どもと、その育ちを支える大人の笑顔が増えることがあると思うと、それが私たちの喜びになる。陰ながらではあるが、これからも愛の聖母園の“架け橋”のような存在であり続けたいと思っています。

黒木 円





栄養士の取り組み

私たちが生きていく上で欠かすことができないものの一つに食があります。何を食べるか、ということももちろん大事ですが誰とどこでどんな雰囲気をとるかということも、とても重要だと思います。普段の食事の一つ一つが積み重なって私たちは出来ています。体だけではなく人格もそれによって作られているのではないのでしょうか。

愛の聖母園は栄養士が立てた献立をもとに厨房で調理した食事を食べるホームと、買い物から調理までホーム職員が行っているホームがあります。食事の準備の仕方に多少の違いはありますがどのホームも食を取り巻く環境作りを大切にしています。

子どもたちが食事をとる食堂はどのホームも温かみがあり家庭的な雰囲気を感じ取ることができます。食器も子どもたちの年齢や好み、提供される料理に合うように色・材質・大きさの異なるものが数多く取り揃えられています。

食事作りの取り組みとして月に数回ホームで調理する日を設置し、それとは別で朝食のご飯と味噌汁をホームで用意してもらっています。朝キッチンから香る味噌汁やお米の炊ける香りを嗅ぐと心がほっと温かくなります。

大舎から小舎になりキッチンが身近にある生活の中で子どもたちは自然と料理への興味関心・知識が高まっているように思います。

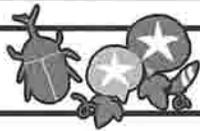
ホームでの食事の取り組みはホーム職員の方々のおかげでとても充実したものになっていると思います。

栄養士としての取り組みの一つに月に数回の手作りおやつ作りがあります。メニューは行事にちなんだものや旬の食材を生かしたものなど様々です。おやつと一緒に行事や食材に関するクイズをイラスト付きで出すと子どもたちは一層喜んでくれるので私も用意のしがいがあり楽しんで取り組んでいます。

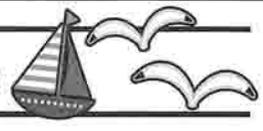
今後子どもたちが心身共に健やかに成長する糧となる食を提供していきたいです。

網屋 美和子





楽しみいっぱい



「容疑者×の献身」を読んで

中学3年 M・A

僕が東野圭吾さんの「容疑者×の献身」に出会ったのは、中学三年になっただけの頃でした。図書室の本棚の間を歩き、目に飛び込んできたのがこの本でした。題名に数学的な文字を使っていたので、興味を持ちました。

東野さんの作品を読むのは初めてでしたが、一度読み始めると、その世界に引き込まれ、ページをめくる手が止まりませんでした。

物理学者であり、知り合いの刑事から頼られる程の頭脳と鋭さを持つ湯川と、天才数学者であるものの、高校の教師に甘んじている石神との戦いが描かれていく中、湯川によって暴かれていく真相。パラパラと少し見ただけでも読みたくなるストーリーです。

僕はこれまで、沢山の小説を読んできました。もちろん推理小説も読んできました。しかし、こんな展開になる小説には一度も出会いませんでした。この展開には驚きました。テレビでは



分からなかった登場人物の感情も、事件のトリックも、全てが一つ一つ事細かに描写されていて、自分の感情を登場人物にそのまま注ぎ込めるのです。これは小説でしかできないことだと思います。

「容疑者×の献身」の中に、石神が泣き崩れ、咆哮する場面があります。その時湯川は無理やり立たせようとする刑事に、「彼にさわるな」と言います。これには湯川の優しさが込められていると思います。どんな人間に対しても、優しさを与えようとする湯川の姿に感動しました。

この本を読んでから、僕は東野さんの本に沢山出会いました。ほとんどが推理小説ですが、東野さんだからこそ作れた作品だと思います。中でも心に残っているのは、刊行後、ベストセラーとなり、映画化もされた「天空の蜂」です。この本の中では殺人は犯されませんが、ある少年の自殺と、巨大なヘリコプターのハイジャックが絡んできて、命の重さと、イジメの悲惨さについて考えることができる一冊でした。

「容疑者×の献身」を読んでから、僕の本に対する読み方が変わりました。今までは物語を端から見ているだけで

したが、その人物の近くに立ち、感情を読み取りながら、登場人物と一緒に感動、悲しみながら読むようになり、これによってその物語をより一層楽しむことができるようになりました。

本を読むことで初めて深く考えることができる「感情」は、これからの生活に活かすことができると思います。また、それを教訓にすることもできると思います。沢山本を読んで、僕の言葉と共に「感情」を広げたいです。

キャンプ

高校1年 M・K

ここに来てから初めてのキャンプがこんなに楽しく出来てとても嬉しいです。あまり話をしたことが無い人達とも、このキャンプで仲良くできて楽しい時間を過ごせました。また、その中で一番嬉しかった事は、他の子と一緒に寝たことです。なぜならホームが皆ばらばらで、こんな事はあまり無いからです。朝起きてから寝るまで24時間ずっと贅沢な時間

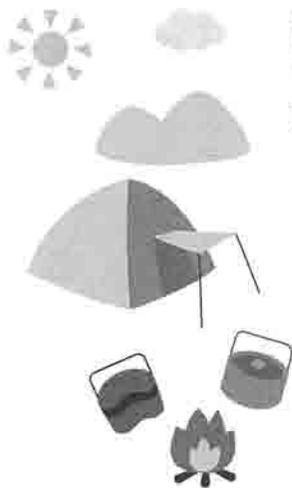




楽しみいっぱい



でした。贅沢というのは、いつもとは違う三日間だったのでそう思いました。そして、海に行けたのも良かったです。今年、初の海が行ったことのない海で、しかも水の中が見えて魚やくらげも見るのができました。泳ぐのが下手で溺れかける事もありました。それでも、頑張っ泳ぐことができて遠くまで行けました。その途中で、たまたま海の中に飛び込もうとした時、人が近くにいて顔を殴ってしまいました。わざとじゃないです。すみません。夜は、バーベキューしたり刺身を食べたり、とっても美味しかったです。今年のキャンプは今までにない楽しくて美味しい良いキャンプでした。行くまでは、何を持って行けば良いかとか、もし行ってから自分だけ忘れ物があったらどうしようとか不安もあったけど、先生や仲間が教えてくれて特に忘れ物はありませんでした。ありがとうございました。



キャンプに行ったよ



小学1年 T・A

7月にキャンプに行きました。まずはフェリーにのりました。次に海水浴のように行きました。その次にバーベキューのかいものに行きました。キャンプじょうについて、火おこしをしました。夜ごはんはバーベキューとパエリアでした。おいしかったです。ごはんは海でも入りました。そのあとは、はな火ときもだめしをしました。2日目は、あさおきてカプトムシとりをしました。そのあとははな火のめえかすをかたづけました。あさはな火は、ウインナーがおいしかったです。たくさんあそんでたのしかったです。おひるごはんは海でおべんとうをたべました。それからまたおよいでたのしかったです。夜ごはんはしゃぶしゃぶをたべました。おんせんも入りました。きもちよかったです。かえりはフェリーでかえりました。またらいねんもキャンプに行きたいです。

夏休みの思い出

高校1年 W・H

私が夏休みで、一番に思い出になった事は応援団でした。高校生になって初めての応援団だったので練習が出来る心配でしたが、しっかりと振付も覚えることが出来たので良かったです。

次に思い出に残ったのは、家に帰った事と、友達とお祭りに行った事です。家には一週間位居ました。応援団の練習がありました。ゆっくりと過ごせました。自分の家から登校するのは初めてだったので、バスが出てくるか不安でしたが迷わずに行けたので良かったです。

お祭りへ友達と行くのは初めてで、とても楽しみでした。人が多くて通路も渋滞していましたが、神社で見た花火はとっても綺麗で、また行きたいです。

次に、園のガーデンパーティに初参加したことです。パーティでは、踊りを踊ったりかき氷を食べたり、中でも、花火なんて最近全然やっていなかったのととても楽しかったです。

夏休みが終わると体育大会や文化祭、色々な学校行事があります。十一月には、実習もあるので夏休み気分を切り替えて過ごしたいと思います。

ハッスル高校3年生

高校生活の思い出

高校3年生 ー ー

僕は高校に入ってから、とても沢山の思い出ができました。部活動や勉強どちらもチャレンジすることの繰り返しで、とても充実した高校生活を送ることができたと思います。

まず部活動面では、中学校の時とはまったく違う部に入り、初めての事ばかりでなかなかうまくいかない時もありましたが、悩んでいる度にチームメイトに励まされ、支えられて三年間向上心をもって楽しく部活動を続けることができました。僕は部活動を通して最高の仲間達と、めぐり逢うことができました。

次に勉強の面では、普通教科に加えて商業について学習し、多くの検定を取得することができました。なかなか一度では受かることは難しい検定もありましたが、一度落ちてしまっても折れることなく、また次にチャレンジして、合格することができました。



く、また次にチャレンジして、合格することができました。

高校三年間、とてもあつという間に過ぎていきました。長いようでとても短かった高校生活は、良いことだけでなく苦い思い出も数多くあります。しかし、この苦い思い出も今の自分になるためにもとても大切であったと思うし、このことから多くのことを学ぶことができたので、結果オーライだと思います。高校で学んだ多くのことを、今後の社会で生かしていくことができれば良いです。



卒業を目前にして

高校3年生 K・K

私がこの愛の聖母園に入所したのは三年前の中学3年の時です。入所した理由としては生活の昼夜逆転による不登校で、生活環境の改善ということで入所しました。私が愛の聖母園に入所した時はもう冬も近い秋のことです。学校に今ま

で行ってなくて家に引き込まっていたというのもあってやはり人と話すのが苦手な友人等もあり作らなかつたのをよく記憶しています。当然中学校のほとんどを休んでいて勉強もしていなかつた私は学力としてはそれはもう最底辺と呼んで差し支えないレベルでした。そんな私が高校に入学できたのはこの聖母園に入所させる事を決断してくれた親と色々なサポートをしてくれた職員の皆様のおかげです。家に居たままだったら高校に行つたかも分からなかつた私は、皆様に助けられてここまで来る事ができました。高校に入ってからはまだ色々とお世話になつたり迷惑を掛けたりしましたが、それでも見離さないで親身になって頂き、本当に感謝しています。私は皆様のおかげで自分に自信が持てるようになりました。

さて、現状報告ですが私は今二つの事柄に取り組んでいます。

一つは、資格取得です。私が今取得しようとして努力しているのは日商簿記二級と全商簿記一級の会計部門です。特に全商の方は、これを取れば全商簿記の資格は全て取得できた事になるので頑張



ハッスル高校3年生 パート2



りたいです。

二つ目は進路です。私は進学で、鹿児島国際大学に進学予定です。そして九月二十九日に指定校推薦の枠を取る事ができたので、進学しても尚一層努力していきたいです。

重ねがさね言いますが、私をここまで押してくれた父、職員の皆様、本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしく願います。



愛の聖母園での生活

高校3年生 R・A

僕は、十年ぐらいの期間、愛の聖母園で生活しました。その中で多くの人と出会い、多くのことを学びました。ここで人生の全てを学んだといっても過言ではありません。時には辛く、厳しく、ここでの生活が嫌になることも多々ありました。集団生活によるストレスや職員との衝突、児童との揉め事

など数え切れないほどあります。

ここでの生活はしよせん疑似家庭だと思えます。血のつながりもない赤の他人で構成された偽物の家族。けれどもそんな疑似家庭だからこそ出来たことがあり、考えさせられたことがあったと思えます。

来年からは社会人になります。これからは自分で考え行動しなければいけません。

その時に今まで過ごしてきた環境のありがたみに気づき、いつかこの疑似家庭が最高だったといえるようになれたらと思えます。



今までの思い出

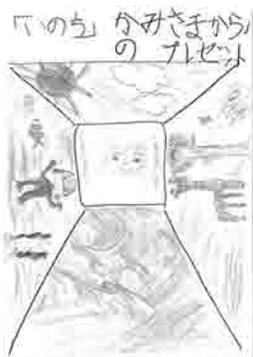
高校3年生 Y・A

この十二年間、愛の聖母園で過ごしているいろいろなことを学び、経験して思い出が作れました。友だちもたくさんできたし、人の大切さや、人と協力して過ごすこと、相手の気持ちを考えて行動する・など、いろいろなことを身

に付けることができました。また、園の先生方には一番感謝しています。将来、失敗しないように、自分のために注意して下さいました。特に担当の先生は、自分の子のように可愛がって下さいました。時にはしかられて喧嘩することもありましたが、それでも普通に接して下さい、自分のことのように喜び、悲しんでくれました。ここまで育てて下さってくれたことにすごく感謝しています。親と離れ、他人みたいな人と過ごすのはすごく不安でしたが、今では自分の家族みたいな存在です。この愛の聖母園に来れたのも何かの縁だと思ふ。ここで十二年間過ごせてよかったと心の底から思っています。



錬成会



プレゼントにもいろいろありますが、大切なたいせつな『いのち』は、頂いた大切なものであることがわかりました。自分の顔を書きました。



れんせい会 はん
テーマのち
かみさまからの
プレゼント
日: 5月17日(土)
場: 谷山

きてくる物
はんち
りきみ
きき用具
色えんひつ
新さん紙

小学校 低学年の
テーマは「いのち」かみさまからの
プレゼント」
シスター 安藤のお話



5,6年生 れんせい会
テーマ: 身近な命の大切さ
28年(6月25日) 日
場所: サビエル会



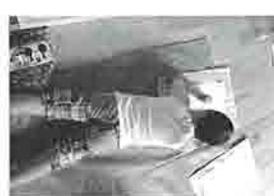
私たちの近くに、さまざま生命について少し考えてみました。とてもたくさんさんの生き生きとしたものに囲まれていて、びっくりしました。お野菜だって、動物だってそうです。すよね・感謝



小学校 中・高学年の
テーマは「身近な命の大切さ」



5,6年生
錬成会
28年(6月25日) 日
しおり





新任職員…インタビュー パート1



新任の方のインタビューを掲載しました。
これからも宜しく願います。

半年経ったいま

保育士 里形 愛美

月日の流れは早いもので、気が付けば愛の聖母園に就職させて頂いてから既に半年、短大時代の実習でお世話になってから一年が経過しました。日々時間との闘いで目まぐるしい毎日を送っている私ですが、一日一日に驚きや笑いがあり、少しずつこの仕事の魅力や楽しさを感じさせて頂いていることに感謝しています。

二つのホームを担当することを知った時、初めは驚き戸惑いました。分からない事はかりで尚且つ人より覚えなくてはならない事が多く、まずは誰の食器か覚えるところから始めなければと思ったのがつい昨日のことのようです。子ども達との関わりも一筋縄ではいかず、時には壁を作られてしまったり、一線引かれてしまったりしたことに悩むこともありました。

そんな中、どんな些細な相談にもつて下さる優しい先生方に救われ、アドバイスを基に実践してみたり、冷静に客観的視点から物事を捉え直してみたりする事ができました。

四ヶ月経った頃から子ども達との関

係性が少しずつ変化し始め、子ども達が悩み事を話してくれたり、歩み寄ろうとしている姿を見ることが出来たりしたことをとても嬉しく思います。また「今日はどっちのホーム？」「一緒にお風呂入りたい」と心待ちにしてくれる子ども達の嬉しい一言や園内と地域小規模施設の双方を学ぶことが出来る事など、フリーをさせて頂いたからこそ知る事の出来た世界であり、本当に感謝しています。

私自身まだまだ未熟で磨くべき点も沢山ありますが、子ども達の為に今何が出来るか常に念頭に置き、子ども達にとつての心の拠り所となるよう精一杯努力してまいります。また、子ども達の大切な一日一日を一緒に歩んでいく大人の一人として、今まで以上に頑張っていこうと思います。最後になりましたが、これからもご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



半年を振り返って

保育士 新屋 里奈

愛の聖母園で勤務させて頂いたとき、もう半年が経ちました。一日一日がとても濃く、新たな発見や気付きの連続で毎日があつという間に過ぎていきます。

四月、初めてホームに入ってキラキラ

した目をしながらも少し緊張気味の表情を浮かべていた子ども達が、今は自分にも喜怒哀楽いろんな表情を見せてくれていることをとても嬉しく感じています。

子ども達と一緒に過ごしていると毎日楽しいことばかりではなく、ぶつかったり解決法が分からなかったりすることもあります。そんな時にホームの先生方からアドバイスを頂くことで違う角度から子どもの気持ちを考えることができたり、子どもの言葉からヒントをもらうことも多くあつたりして、私自身が周りに助けられています。

この半年の間に、小学生会キャンプやガーデンパーティ、十五夜などの行事に参加させて頂きました。また授業参観や水泳大会、体育祭などを見に行く機会もあり、普段の生活では見られない表情や一生懸命な姿には心を打たれました。子ども達と一緒に思い出作りや多くの体験ができたり、子どもの様々な姿を一番近くで見ることができたりすることがこの職業の魅力だなと改めて感じています。

これからたくさん時間を子ども達と一緒に過ごしていくなかで、子どもと喜び、悲しみ、楽しさ、辛さなどを共有し、同じ目線になって一緒に成長していけるように日頃の関わりの時間を今更でよりもっと大切にしていきたいと思えます。今は私が周りに助けてもらってばかりなので、これからは私が少しでも力



新任職員・・・インタビュー パート2



になれるよう、少しでも頼ってもらえるような存在になれるように多くのことを吸収しながら一日一日頑張っていきたいです。



半年を通して

保育士 小田 圭一郎

愛の聖母園の職員として働かせていただき、半年が経ちました。毎日の生活を子ども達と過ごす日々は充実している反面、悩むことも多くこの仕事の難しさを感じています。

愛の聖母園は、子ども達一人ひとりと親密な関係を結べる環境です。そのため、子ども達の一日の表情や言動を直に感じることが出来ます。学校であつた出来事や今日は何をして遊ぶのかなど大小さまざまなことが子ども達一人ひとりに表れます。その一つ一つを子どもと一緒に考えたり悩んだりすることがこの仕事の醍醐味だと思います。時には、色々な出来事が重なり余裕を持って子どもに対応できなかつたこともありましたが、生活を共にすることで一緒にいる人だと子ども達に少しずつ思ってもらえるように日々を過ごしています。また、生活をするなかで失敗することも多くその度に先輩方から頂くアドバイスを基に反省し、次に生かすためにはどうすればよいか同じ

失敗を繰り返さないようにするにはどうすればよいか葛藤しています。子ども達のために何が出来るだろう、この関わり方はその子にあつた関わり方だっただろうかなど正しい答えはないからこそ葛藤だと思っています。今、子どもたちと関われることに感謝し、子ども達の成長を手助けできるように、私自身、人としても職員としても成長していかなければと思っています。

子ども達が背負っているものは大きく、それを全て受け止め、辛いことも嬉しかつたことも共感し、子ども達にとって精神的に支えていける存在になつていき、日々の生活を過ごしていけるよう努力していきたいと思っています。

半年間を振り返る

保育士 大山 葉



愛の聖母園で子どもたちと生活を始めてからもう半年経ちました。この半年間は本当に風のように早く過ぎ去っていきました。特に始めの三ヶ月間くらいはとても慌ただしく一日の流れや業務を覚えることに必死で、中々それらを覚えられないことに焦りを感じていたり慣れない生活に毎日緊張したりしていました。

けれどもようやく少し慣れてきて一人でホームを任せていただく時間が出来た

頃には、子どもの先輩職員と私へ対する対応の違いに悩むようになりました。前々から感じてはいましたがホームに職員が私一人となるとホームの雰囲気が変わりそれを更に強く感じるようになりました。ですがこのことを先輩職員や同期に相談すると、同じ悩みをもつ同期がいることが分かったり、現場で先輩職員がサポートしてくださったりしました。また少しでも早く子どもと信頼関係を築くことが出来るように一対一となる入浴や就寝の時間は特に大切にしてみました。こうしてきたことで半年経つた今、少しはあります。子どもとの関係性が四月よりは良い方向へ変化している気がします。

また、私は七月から新しいホームを任せていただいています。当初は正直子どもとのことだけでなく職員配置が変わることやまだまだ未熟な自分で務まるのかということ等様々なことに不安を抱いていました。けれども成長出来る機会をいただいたのだと考え直し取り組むことにしました。実際は本当に先輩職員や同期の支えを身に染みて感じており様々なことも経験させていただいておりとても感謝しています。

これから、もっと大変なことや難しいことが出てくると思いますが子どもたちの大事な時期に関わっていることやこの職業に誇りを持ち一生懸命取り組んでいきたいと思っています。



2016年12月

ニュース・しター

愛の聖母園を支える会
 会長:ホセ・デルコス
 (ラ・サール学園 理事長)
 運営委員一同

「愛の聖母園を支える会」を2000年7月に町内会の有志の方々・カトリック教会関係の有志の方々により発足いたしましたので、16年の歳月が過ぎました。この間多くの方々が正会員・ローソク会員となって支えて下さっております。ありがとうございます。

活動内容は、高校卒業と同時に、進学して専門の学びを深めていく子供・就職の場に恵まれ、社会に貢献する卒園生たちも多くなってきました。とっても良い事だと思います。他には、毎年同じようなことですが、自動車運転の免許取得費用・就職のための準備の支援、部活動のための支援、行政の目が届かない所への支援、などとなっております。

善意の方々からのご支援・ご協力は、愛の聖母園の子ども達が将来に向かって自立し、夢と希望を持って生きていけるようにと願って活動いたしております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、皆様が益々お元気でご活躍できますよう、心からお祈りさせていただきます。

今年もよろしくお願ひします

入会ご希望の方、詳細をお知りになりたい方は下記へご連絡下さい。

「愛の聖母園を支える会」事務局

〒890-0081 鹿児島市唐湊2丁目10-2

レデンプトル宣教修道女会内

TEL 099-253-6658 FAX 099-253-6651

【郵便振込み口座】

番号 01760-0-55679

口座名義 愛の聖母園を支える会



ボランティアひろば Thank you

子どもとの交流

芝原慶次・ゆかりさま
 森元晶行さま
 ふれあいサークルの
 みなさま

学習指導

吉川百合子さま
 ふれあいサークルの
 みなさま

ピアノ

徳田昭子
 さま

一時里親

秋丸ミナ子さま
 職員のご家族
 のみなさま

三味線

堀脇三知世
 さま

園内整備

平井重久さま
 上村きみよさま

ハンドベル

安楽 晃さま

様々な奉仕

シスター安藤克子
 シスターカタリナ
 野田ふよこさま

お心遣い に 感謝 !!



ご支援・ご協力に感謝 (平成27年11月〜平成28年9月 敬称略・50音順)

- 愛の聖母園を支える会
代表 ホセ・デルコス
会員一同
- 青木 学
- アバマンシヨップネットワーク
- 御粹家劇房 富ヶ原 陽介
- イクタ有志会
- 伊地知 美千代
- 井上 正治
- 合村 光恵
- 岩崎 正幸
- 岩瀬 裕
- 白山 剛
- 打越 政継
- 浦田 和美
- N T 労働組合 鹿児島分会
- 働エフワン 五十嵐 文子
- エムオーエル協会
- エムゼス指宿店
- 大神 佳代
- 大川原 美樹
- 奥野 晴美
- カーフスイオン谷山店
- カープスたわわタウン谷山店
- 甲斐 美鈴
- 柿元 写真館
- 柿元 行夫
- 鹿児島キフニスクラブ
- 鹿児島県共同募金会
- 鹿児島県里親会
- 鹿児島県肉事業協同組合連合会
- 鹿児島県中小企業団体中央青年部会
- 鹿児島県調理師協会
- 鹿児島県立若駒学園 園長 折小野 博美
- 鹿児島県サザンウィンドロータリークラブ
- 鹿児島さつまライオンズクラブ 中田
- 鹿児島純心女子短期大学 学生会
- 鹿児島谷山ライオンズクラブ
- 鹿児島トヨベット 山下 純一
- 鹿児島荷役海陸運輸 杉木 和子
- 鹿児島まぐろ同友会 会長 上夷 和輝
- 働カネムラ商店
- 川畑 恵
- 河南 和子
- N P O 法人キッズドリームパートナーズ
- ギャップジャパン 働
- コーポレートコミニケーションズ
- 九州アイスクリーム協会
- 九州労働金庫
- 九州野 博
- 御所保育園
- 酒井 理香
- さくらモータース 代表 是枝 信義
- 薩摩一番どり利休
- 佐藤食品工業 働
- 佐藤 浩之
- 働サムライロックオーケストラ
- J A 鹿児島県経済連企画開発課
- 働し方屋
- 重留 万希子
- 下地 浩二
- 篠崎 美五
- 芝原 慶次
- 働樹楽 椰木 春幸
- 杉元 博幸
- 働スペースジョイ 会長 許 重九
- 精原クリニック 小林 彰・和
- 全国シヤンメリー協同組合
- 園田 にしき
- 第一生命保険 働
- 鹿児島営業職支部 鹿児島内勤職支部
- 働高岡屋 上村 清一
- 高嶺 澄子
- 働タスカジヤバンクアウテモック
- 立石 聖子
- 田中整形外科 田中 源幸
- 田中ひび科医院
- 谷山校区婦人会
- 谷山中学校職員一同
- 谷山善き牧者幼稚園
- タリィズコーヒージャパン 働
- 地方紙正月連合企画係 田辺 敏輝
- 知覧 泰児・春菜
- 辻 孝代
- 堤 しおり
- Deans English School
- T-MAX 新栄店
- 堂園 良子
- 東洋出版 働
- トウヨウスチール 働 久司 泰一
- 遠竹 勝子
- 徳田 けい子
- 鳥越 九十雄
- 中瀬小児科
- 長友 繁
- 長野 浩二
- 西谷山校区社会福祉協議会
- 西谷山校区女性連絡協議会
- 西谷山小学校職員一同
- 日本餅組 理事長 樋口 元剛
- 日本ガスエネギー 働 竹川・高原
- 働日本教文社
- 野間口 聖奈
- 萩原 秀俊
- 濱田 深志
- 働ビー・アングル
- 平林脳神経外科 平林 和明
- フリードマンモリスジャパン 働
- フードバンクかごしま
- 福富歯科医院
- 富士ゼロックス鹿児島 白石 幸伸
- 瀬上印刷 働
- 堀川愛生園
- 松永 さとみ
- 働まつおら
- マルハン卸本町店
- 酒正苑
- 働 Misumi
- 三原 麻美
- 明光クリーニング西谷山店 平田 ミネ子
- 山口 泉
- 山口 政行
- 山下眼科クリニック 山下 豊美
- 働ユーコーラッキー新栄店
- 横山 善子
- 楽天 働
- ラ・サール学園
- ラ・サール学園 母の会
- レンブートル富教修道女会
- 働六葉煙火
- 若松 栄作
- 若松 與曾吉
- 匿名の方々
- 取引業者の方々
- 入所児童保護者・親族の方々



*万一記載漏れや誤字のあった場合は、深くお詫び申し上げます。



▲ ピアノとバイオリンのご奉仕



▲ 応援団練習のご奉仕



▲ ハンドベルのご奉仕



▲ お料理のお手伝い



▲ 作業のご奉仕



▲ 三味線のご奉仕



▲ 錬成会のご奉仕

この一年、皆様のご支援・ご指導深く感謝申し上げます。新しく始まる年も同様によりしくお願い致します。

愛の聖母園では、家庭的養護推進計画の取り組みを具体的に、平成24年度より実施して参りました。段階的計画にしておりますが、平成27年度から5カ年計画として以下のような取り組みを目標と致します。

- ※ 施設内小規模グループケアの充実
- ※ 里親支援専門相談員を中心とした地域拠点づくり
- ※ 小規模グループケアの地域分散化計画
- ※ 児童家庭支援センター設置に向け職員養成・機能的施設運営の検討
- ※ 地域小規模児童養護施設の充実

地域には既に、地域小規模児童養護施設として2つのグループが生活しており、地域の中で皆様や職員の支援を継続的に受けております。本園内では、5つのグループが各々生活しているが、その内の1グループが地域で生活できるようになればと考えています。

子ども達が、地域でより充実した生活をするにより、もっと家庭に近い養育を目指し、子ども達に対する日常的な生活感あふれる養育が出来ることを願っております。

本園施設の充実・機能の強化と地域分散化という2つの事を同時に行っていくこととなります。人材の養成も課題となるが、専門職を含め全職員が一致協力し取り組む中で、少しずつ実現していく事が出来ると考えます。お互いの意見を尊重し、話し合いを重ねて目的を目指すこととなります。

職員の労力の軽減・孤立させない組織運営が必要となります。

今年より職業指導員を配置致しました。児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付事業等の利用を行い、①就職予定者②進学者③資格取得希望者等に対して具体的な実施を始めているところです。

引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

愛の聖母園 園長 小牟田 久美子



愛の聖母園 課題解決委員会

- 課題解決責任者 小牟田 久美子
 課題解決受付担当者 川原園 淳一（児童指導員、社会福祉士）
 町田 照子（保育士）
 第三者委員 岡田 洋一（鹿児島国際大学准教授）
 川下 智子（医師）
 岩崎 正幸（ラ・サール中・高校教諭）

課題解決受付件数 平成28年（H27年12月よりH28年11月まで）0件

愛の聖母園や子どものことでご相談やご意見がございましたら、ご遠慮なくお申し出ください。

情報公開しております

全国経営協ホームページより「会員法人情報公開ページ」にて閲覧できます